令和８年度吉川市

主な事業のあらまし

市民の皆さまからお預かりしているお金の
使い道などをご説明します。



©yoshikawa

吉川市

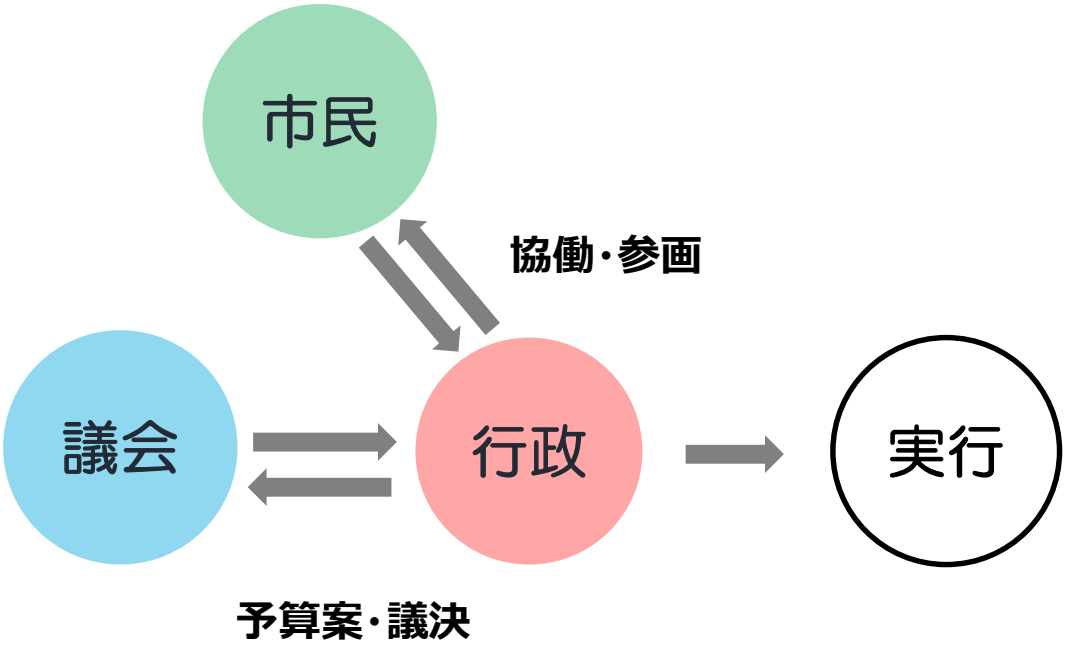
基礎知識編

Q そもそも、予算とはなんですか？

A 予算とは、1 年間の収入と支出を見積もることです。
新しい年度が始まる前に、1 年間（4 月から翌年 3 月まで）にどのくらいの収入があるか、その収入を元にしてどのような事業を行うかを計画し、その費用を見積もります。

Q 予算はどのように決まるのですか？

A 市民の皆さまとの協働により策定した「総合振興計画」を踏まえ、市の担当部局が 1 年間の事業計画を検討します。市長は、担当部局との調整を重ね、予算案としてまとめ、市議会に提出します。
その後、市議会において予算案が審議され、議決によって予算が決まります。



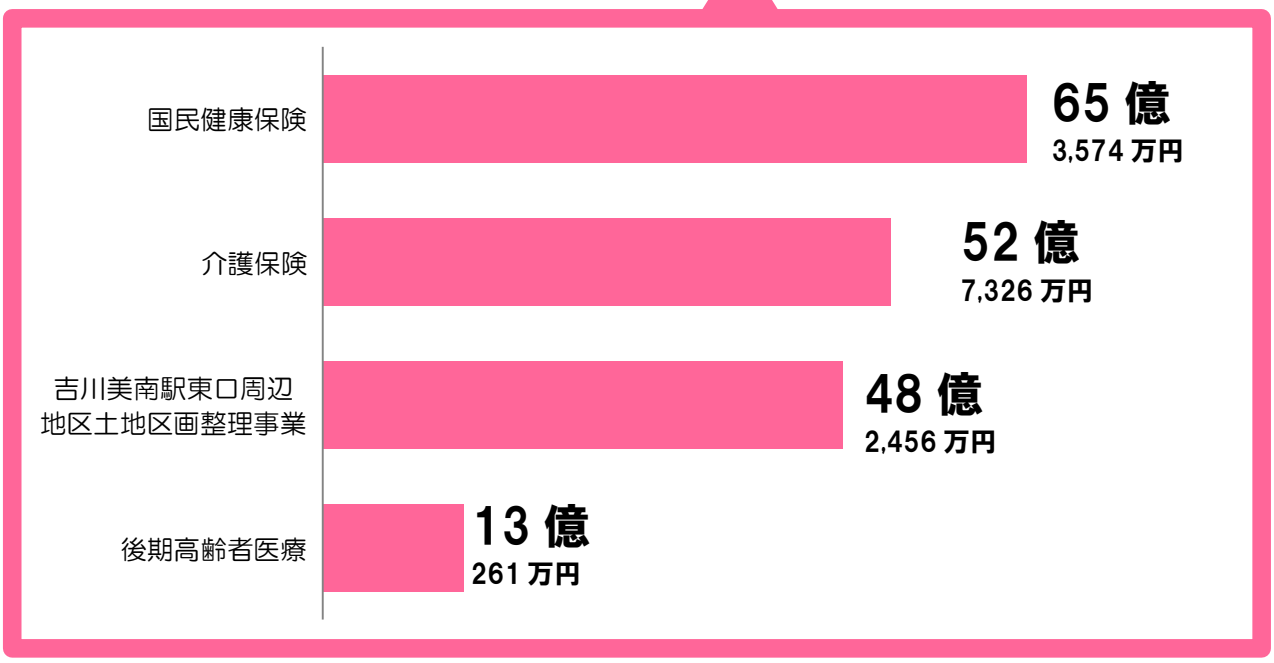
Q 令和８年度の吉川市の予算は？

A

一般会計、特別会計、公営企業会計の予算を合わせると、

533 億 8,149 万円 になります。

一般会計	特別会計	公営企業会計
291 億 5,000 万円	179 億 3,617 万円	62 億 9,532 万円
福祉、教育、道路整備などを進める基本的な行政サービスを行うための会計です。	特定の目的の会計で、吉川市には４つの会計があります。	市が経営する企業の会計で、吉川市には水道事業会計、下水道事業会計、農業集落排水事業会計があります。



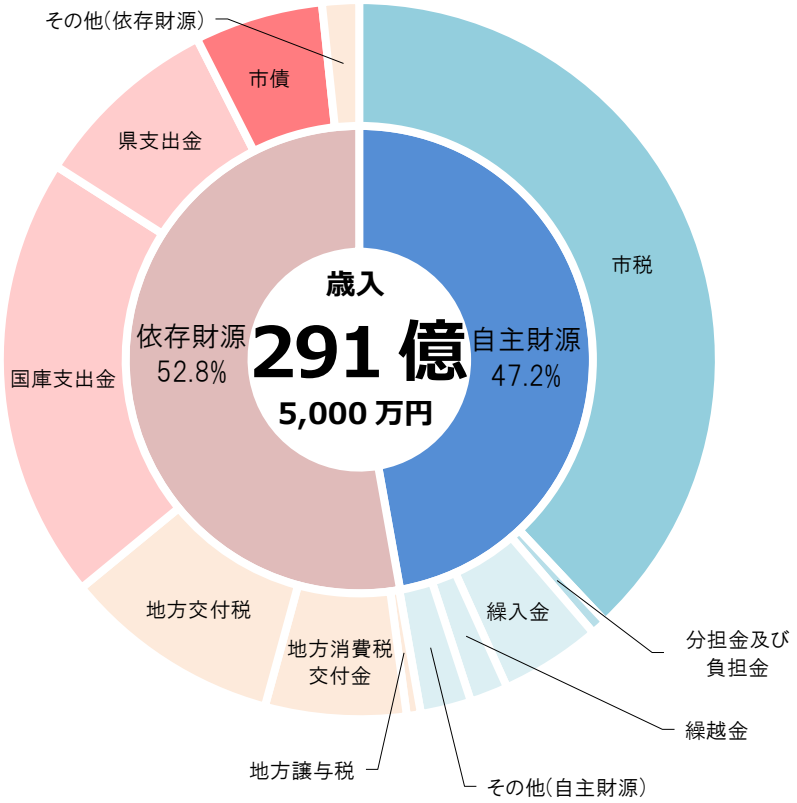
※公営企業会計については、収益的支出と資本的支出の合計額を予算額としています。
※本文及びグラフの数字は１万円未満を四捨五入しているため、予算書の予算額と一致しない場合があります。

歳入編

※収入のことを「歳入」といいます。

Q 令和８年度の吉川市の歳入は？

A 一般会計の歳入には、市税や国・県からの支出金、銀行などからの借入金や施設の使用料などがあります。



～依存財源～

吉川市が国や県などに依存するかたちで調達する財源です。

●市債　16 億 8,760 万円

大規模な工事などの事業を実施するために、国や金融機関から借り入れるお金です。

●国庫・県支出金　83 億 443 万円

皆さまが国や県に納めたお金の一部が、特定の目的を達成するために地方公共団体に交付されます。

●地方交付税　28 億 6,300 万円

皆さまが国に納めた税金の一部です。一定の割合に応じて地方公共団体に交付されます。

●地方譲与税　1 億 8,200 万円

国税として徴収した特定の税目の収入の一部が、一定の基準に基づいて地方公共団体に譲与されるものです。

～自主財源～

吉川市が自らの権能に基づいて自主的に収入できる財源です。

●市税　110 億 7,863 万円

市民の皆さまから吉川市に納めて頂く税金です。市民税、固定資産税などがあります。

●分担金及び負担金　2 億 974 万円

事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者に負担していただいているお金です。

●繰入金　13 億 2,340 万円

一般会計と特別会計の間で相互に資金運用するためのお金や、各種基金（市の貯金）を取り崩して使うためのお金です。

●繰越金　5 億円

前年度の支出を差し引いて余ったお金を、今年度の財源とするために繰り越した分のお金です。

歳出編

※支出のことを「歳出」といいます。

Q 令和８年度の吉川市の歳出は？

A 歳出は 12 の目的に分けられ、一般会計 291 億 5,000 万円のおよそ 45.9%が児童手当や保育委託料、障がい・高齢福祉サービスなどの民生費で 133 億 7,268 万円となっています。また、性質別など違う角度から見ることで、吉川市の現在の状況などを知ることもできます。

●議会費　2 億 1,352 万円
市議会の運営に必要な経費です。

●総務費　25 億 7,133 万円
市役所の全体的な仕事に必要な経費です。

●民生費　133 億 7,268 万円
社会福祉や児童福祉に必要な経費です。

●衛生費　20 億 8,705 万円
健康維持や環境保全などに必要な経費です。

●農林水産業費　3 億 2,768 万円
農業の振興や普及に必要な経費です。

●商工費　1 億 5,488 万円
商工業の振興などに必要な経費です。

●土木費　28 億 6,239 万円
道路や公園の整備などに必要な経費です。

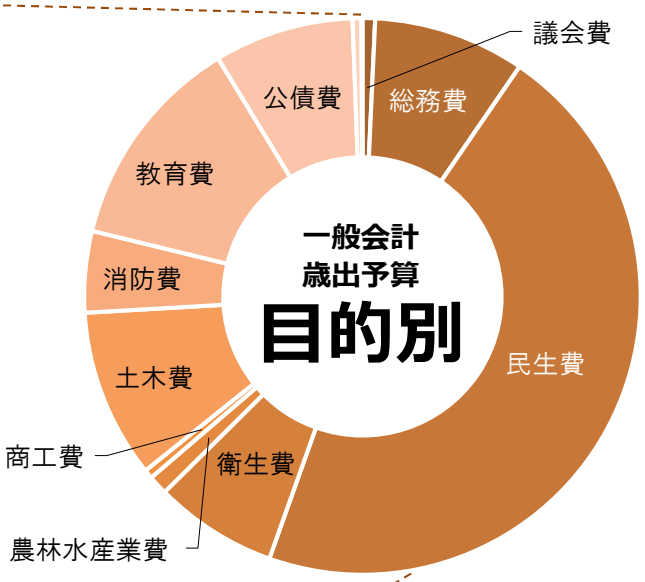
●消防費　13 億 7,544 万円
減災、消防などに必要な経費です。

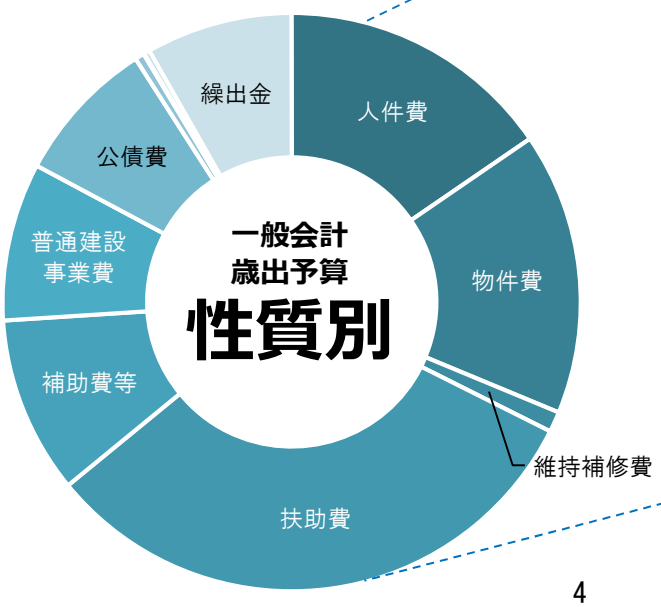
●教育費　36 億 5,728 万円
学校教育、社会教育などに必要な経費です。

●公債費　23 億 6,291 万円
借入金の返済に必要な経費です。

●諸支出金　1 億 4,984 万円
ほかの支出に含まれない経費です。

●予備費　1,500 万円
緊急の支出に充てるために必要な経費です。





●人件費　44 億 9,850 万円
職員の給与などに係る経費です。

●物件費　46 億 703 万円
光熱水費、消耗品費、通信運搬費、委託料などの経費です。

●維持補修費　3 億 2,933 万円
市が管理する施設等の効用を維持するための費用です。

●扶助費　92 億 4,336 万円
子育て支援、障がい者支援、生活保護などに係る経費です。

●補助費等　28 億 9,034 万円
団体への補助や一部事務組合に対する負担金などの経費です。

●普通建設事業費　25 億 7,387 万円
道路や学校の改修など都市基盤の整備に係る経費です。

●積立金　1 億 4,967 万円

●貸付金・出資金　8,990 万円

●公債費　23 億 6,291 万円

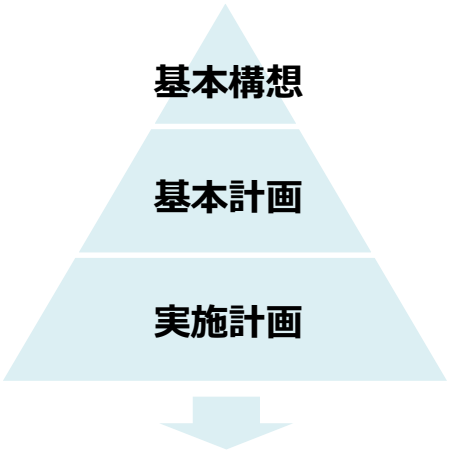
●繰出金　23 億 9,009 万円

●予備費　1,500 万円

主要事業編

Q 令和８年度はどのような事業を行いますか？

A 吉川市で令和８年度に行われる事業の一部を、第６次総合振興計画・前期基本計画の重点テーマごとにご紹介します。総合振興計画とは、吉川市のめざすべき将来都市像「幸せつながる　みんなのまち　よしかわ」を実現するため、市政運営の長期的な指針を示すことを目的として策定するもので、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成しています。



基本構想
めざすべき市の将来都市像や将来都市構想、各分野の取り組みの方針となるまちづくりの目標などを示します。

基本計画
基本構想で示す将来都市像を実現するための施策の枠組みと個々の施策の目的や達成目標を示します。

実施計画
基本計画で示す施策に基づき、具体的な事業を財政的な裏付けをもって示します。実施計画は、原則として２年ごとに見直しを行います。

まちづくりの目標として設定する施策体系のうち、前期基本計画において特に積極的かつ分野横断的に推進すべき取り組みを「重点テーマ」として位置付けています。

第６次総合振興計画前期基本計画施策体系

Ⅰ　人を育むまちづくり　〈こども・学び部門〉	Ⅴ　パートナーシップによるまちづくり　〈パートナーシップ部門〉
Ⅱ　支え合う健やかなまちづくり　〈健康・福祉部門〉	
Ⅲ　安心と賑わいのまちづくり　〈生活・産業部門〉	
Ⅳ　快適で持続可能なまちづくり　〈都市・環境部門〉	

重点テーマ

- Ⅰ　命を守る
- Ⅱ　子どもの笑顔を未来につなぐ
- Ⅲ　誰もが輝くまちをみんなで創る
- Ⅳ　価値を高め、次世代に継承する

Ⅰ　命を守る

●みんなで備える防災・減災の推進

○もっとも重要な、各家庭での備蓄について啓発するとともに、各避難所の備蓄物資として、食料や飲料水に加え、スープやリゾット、携帯トイレなどを引き続き整備します。

○避難所である児童館ワンダーランド遊戯室と旭地区センター体育室において、避難者の良好な生活空間を確保するため、空調設備設置のための設計業務に取り組みます。

○市民主体の災害対策訓練である「減災プロジェクト」は、「東中学校」を避難所とする自治会を対象に実施し、災害時における避難行動や、HUG 訓練を通じた避難所運営の訓練を行い、地域の減災力向上を図ってゆきます。

●災害に強い都市の整備

○治水対策については、吉川駅北口周辺地区の水害軽減を目的に、共保雨水ポンプ場の増強に向けた詳細設計に取り組むとともに、中野地区の水害に備えて配備している大型排水ポンプについても更新を行います。

○水道事業については、「施設更新計画」に基づき、会野谷浄水場内の県水受水管の更新をはじめ、老朽化した水道施設の更新や吉川駅の南部地域における石綿セメント管の耐震管への布設替えを進めます。

○下水道事業については、令和 7 年 1 月に八潮市内で発生した下水道管の破損による道路陥没事故を教訓に、引き続き下水道施設の点検・調査を実施し、適切な維持管理に努めるとともに、「災害に強い下水道」を実現するため、避難所である中央公民館につながる下水道管の耐震化に向け、設計作業に取り組みます。

このページ以降の事業内容については、3 月議会において市長が 1 年の市政運営の基本的な考え方や主要な施策について述べる「施政方針」から抜粋・編集し、掲載しています。

※「主な事業費」には一部令和 7 年度からの繰越額を含んでいるものがあります。



©yoshikawa

主な事業費			
減災・水防対策事業	3,093 万円	総合治水事業	9,910 万円
河川整備事業	6,542 万円	吉川松伏消防組合負担金	11 億 9,387 万円
公共下水道公費負担事業			3 億 5,150 万円

Ⅱ　子どもの笑顔を未来につなぐ



●妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実

○「こども家庭センター」の運営を通じて、すべての妊産婦、子育て世帯、子供に対し、母子保健や児童福祉の幅広い観点から一体的に相談支援を行ってゆきます。

○妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を進めるとともに、配慮が必要な子供やその家庭に対するきめ細かな対応に取り組み、伴走型相談支援の更なる充実を図ってゆきます。

○少子化対策に資するため、保険診療での体外受精または顕微授精による一連の治療と併せて実施される先進医療費用の一部を助成し、不妊治療における経済的負担の軽減を図ります。

●安心して子育てできる環境の充実

○公共施設内の「赤ちゃんの駅」については、より良い環境の下で安心して利用できるよう、個々の状況を考慮して、授乳・搾乳のスペースを刷新するなど、環境整備を進めます。

○保育については、保育を必要とするすべての子供や家庭が安心して良質な保育を受けられるよう、保育の質の向上に取り組むとともに、子供の育ちの支援と子育て家庭の孤立防止を目的としている「こども誰でも通園制度」の取り組みを市立第二保育所において実施してゆきます。

●学校教育の充実

○子供達の学びを支える学習環境の整備については、美南小学校校舎特別教室等の空調設備の更新を行うとともに、GIGA スクール構想に基づき整備した 1 人一台端末や周辺機器が更新時期を迎えることから、新たな端末等を整備し、学習活動の更なる充実を図ってゆきます。

●若者支援

○社会福祉協議会とタイアップした大学等受験料のサポートを進めるとともに、NPO 団体等の関係者からの意見を踏まえ、フリースクール等の利用料の助成や若者の資格取得へのチャレンジを応援する事業を実施し、当事者一人ひとりに寄り添った支援を行ってゆきます。

主な事業費			
妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実に係る経費			1 億 8,730 万円
保育・学童に係る経費	35 億 4,576 万円	児童館の運営に係る経費	2,935 万円
ICT 教育の推進に係る経費			7,678 万円
不登校支援に係る経費	4,096 万円	若者支援事業	122 万円

Ⅲ 誰もが輝くまちをみんなで創る



●共に支え合う地域福祉の推進

○重層的支援体制整備事業の充実強化を図り、複雑複合化する生活課題への包括的な支援を行うとともに、自立相談支援を軸とした寄り添った相談により、安心して生活してゆける支援を進めてゆきます。

○「子どもの学習支援事業」については、より参加しやすい環境で学習に取り組めるよう、小学 3 年生から中高生まで一体的に事業を展開します。

●いきいき暮らせる高齢者福祉の推進

○「高齢者が幸福を実感し、すべてのひとが生涯にわたり居場所と役割を持ち活躍する地域」を理想像とする、「第 9 期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、地域包括ケアシステムの推進を図るとともに、地域型介護予防教室、運動教室などを通じて高齢者の健康への意識の高揚、健康寿命延伸を図ってゆきます。

○令和 8 年は昭和 100 年に当たることから、先人が築き上げてきた昭和をテーマとした催しを開催するとともに、高齢者や活動の支援を行う団体を紹介するスタイルブックを活用し、高齢者の社会参加のきっかけづくりに取り組んでゆきます。

●互いに尊重し合う障がい福祉の推進

○令和 7 年度は、市内の農家や事業者の方々に参加協力をいただく中、複数の障害福祉事業所の利用者が、農産物などを販売する「障がい者の新たな就労スタイル」の実証販売を行いました。令和 8 年度は、これを検証し、農・商・福・行政がさらに連携し、持続可能なより良い仕組みとなるよう取り組んでゆきます。

●平和で互いを認め合う人権尊重の社会づくり

○戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に語り継いでゆくために、吉川市出身在住の俳優寿大聡（じゅだいさとし）氏がプロデュースした、戦争の記憶を次世代へと伝えるドキュメンタリー映画「満天の星」の上映会を実施し、平和の大切さを考える機会を提供します。

●コミュニティ活動と市民参画・協働の推進

○自治連合会との協働事業である「地域課題を地域で解決するための勉強会」から発展した「よろず相談所」において、自治会等が地域で抱えている様々な個別の課題を取り上げ、解決に向けた支援を行います。

主な事業費			
地域福祉の推進に係る経費	8,095 万円	子どもの学習支援事業	1,567 万円
障がい福祉の推進に係る経費			27 億 2,047 万円
高齢者福祉の推進に係る経費			9 億 5,705 万円
コミュニティ活動と市民参画・協働の推進に係る経費			6,712 万円

Ⅳ 価値を高め、次世代に継承する



●文化芸術でつながるまちづくり

○文藝よしかわ第 11 号の発刊や、俳句協会の皆さまのご協力の下、子供達が俳句作りを通して郷土を知る「ハイク探検団」の開催などに取り組むとともに、市民文化祭や吉川市文化連盟との共催による吉川市美術展覧会「市展」の開催など、市民の文化芸術活動の振興に努めてゆきます。

○「演劇プロジェクト」については、市制施行 30 周年の機会も捉え、プロジェクト創設にご支援をいただいた「彩の国さいたま芸術劇場」に改めてご協力をいただき、新たな演出家を迎え、市民とともに台本を書くという文芸活動との連動を取り入れた取り組みに挑戦し、演劇プロジェクトの新たなステージを創ってゆきます。

●農商工業の振興

○「下八間堀悪水路改修」をはじめ、農業生産基盤となる用排水路の整備や修繕を継続して進めます。

○「農業拠点施設整備」については、「吉川市農業パーク基本構想」の実現に向け、三輪野江地区における新しい農業の振興を図るため、令和 7 年度に第 1 弾となる参入事業者公募を実施しました。令和 8 年度は、円滑に農業参入が進められるよう、第 1 弾となる農業拠点整備を展開してゆきます。

○「賑わいある商業・活力ある工業の振興」については、「物価高騰対策商品券発行事業」や「賃上げ奨励事業」を展開し、事業者を支援するとともに、市民の負担軽減や消費喚起を促し地域経済の活性化を図ります。

●吉川美南駅東口周辺地域の整備

○駅前の近隣公園整備については、コンセプトである「みんなの庭」を象徴する場所として、子供達のアイディアを取り入れながら、にぎわいの創出に向け、民間企業のノウハウを活かした民間活力導入の可能性について調査を進めてゆきます。

○「吉川美南駅東口駅前の文化芸術関連施設を中心とした公共施設整備」については、吉川美南駅前公共施設整備基本構想・基本計画に基づき、民間活力を最大限に活用し、本市の価値を高め、新たな魅力のある文化芸術活動拠点の創出を目指し、事業者募集を進めてゆきます。

●環境にやさしいまちづくり

○脱炭素社会実現に向けた取り組みとして、屋内温水プールへの再生可能エネルギー導入を進めます。

○「自然環境の保全」については、引き続き各小学校での環境学習を進めるとともに、大沢雄一元埼玉県知事居宅跡地に整備した公園を活用した森林環境に係る普及啓発と、郷土の自然環境に親しむ機会の創出にも取り組んでゆきます。

主な事業費			
文化芸術振興に係る経費	1,022 万円	農商工業振興に係る経費	6 億 9,124 万円
吉川美南駅東口周辺地域の整備に係る経費			47 億 7,492 万円
ゼロカーボン推進に係る経費	1 億 5,680 万円	ごみ処理・減量化の推進に係る経費	10 億 5,986 万円

その他の主要な事業

●公有財産の管理

○「吉川市公共施設長寿命化計画」に基づき、屋内温水プールの大規模改修工事に向けて設計を進めるとともに、昨年度に引き続き、公共施設の LED 化を進めます。

●スポーツ施設の整備

○「分散型スポーツ施設の整備」については、東埼玉資源環境組合第二最終処分場における、多目的グラウンドやテニスコートの整備を進めます。

○屋外市民プール跡地の活用も検討を進め、引き続き、市民が身近な場所で気軽にスポーツに親しめる環境を整えてゆきます。

●道路・公園等の整備

○適正な道路環境の維持管理に努めるため、「いちょう通り」や「きよみ野地内」などの主要な道路の一部修繕のほか、「中曽根跨線橋のアプローチ部分」の修繕を実施します。さらに、「旭・三輪野江地区の生活道路整備」については、令和 6 年度に各自治連合会において決定した優先順位に基づき、「屋形前周辺」や「小松川地内」の道路の修繕を進めます。

○「吉川駅北口駅前ロータリー」の改修工事については、引き続き、シェルターや歩道などの整備を進めます。

○「越谷総合公園川藤線」については、令和 7 年度に実施した予備設計の成果を下に、道路築造に向けた地盤解析に着手してゆきます。

○街路樹の維持管理については、道路利用者の安全確保をはじめ、効果的な街路樹の在り方や、持続可能な維持管理を目指し、街路樹のマネジメントに関する方針の策定を進めてゆきます。

○公園等の整備については、市民の皆さまが、より親しめ、憩える公園となるように展開している「公園再生プロジェクト」に基づき、老朽化した遊具などの修繕等を行うとともに、遊具を撤去した高久公園には複合遊具の設置、永田公園には木材を使用した遊具の設置を進めます。

●持続可能な公共交通の充実

○令和 7 年度に策定した「吉川市地域公共交通計画」に基づき、令和 8 年度は、バス路線廃止に伴う代替交通として、吉川駅の南部地域では、三郷市との連携の下、新たな路線バスが 4 月から運行開始の予定となっているほか、東部地域では、タクシー利用料金助成事業を継続しながら、まずは地域の移動ニーズを把握するための調査を行います。

主な事業費			
公共施設の長寿命化事業	1,803 万円	スポーツ施設整備事業	6 億 6,070 万円
道路環境の充実に係る経費	13 億 2,860 万円	公園等の整備に係る経費	3 億 482 万円
地域公共交通に係る経費			4,264 万円

～市長からのメッセージ～



●むすびに

私が市長就任以来、一貫して掲げてきた「まちづくりの理念」は、「市民一人ひとりが日々の暮らしの中で幸福を実感でき、持続可能」である「価値ある未来」をこの吉川市に創り出すことです。しかし、「幸福実感」も「持続可能」も、行政が創り与えるものではありません。それぞれの課題やチャレンジに、市民一人ひとりと行政が共動で立ち向かう中でこそ、「幸福実感」「持続可能」という「価値ある未来」が生み出されるのです。

そうした中、今年４月１日、吉川市は市制施行 30 周年の節目を迎えます。この慶事に際し、市を挙げて記念の年を祝うとともに、「市民一人ひとりが日々の暮らしの中で、幸福を実感できる、持続可能なまち」に向けて、吉川市がさらなる一歩を踏み出せる年となるよう、これまでの歴史を大切にし、先人に感謝する中で、市民・企業・団体・行政が一体となって、市制施行 30 周年記念事業を実施してゆきます。

実施においては、特に、子供や若者が 30 周年記念事業に関わりやすい環境を作り出すことを重視し、「未来を担う子供や若者が吉川市の未来について「想像」・「創造」するワークショップの開催」「市制施行の際に設置したタイムカプセルの開封式開催」「サーカスへの招待」「子供達をはじめ、幅広い世代の市民が「ｅスポーツ」に触れることができる機会の創出」など、子供や若者達が吉川市の魅力を再発見、創出する中で、吉川市への愛着心や誇りを育めるような事業を展開してゆきます。

町から市となってのこの 30 年の間、きよみ野地区、美南地区、中央地区の区画整理や JR 吉川美南駅の開業、また、美南小学校や吉川中学校の開校など、「街の基盤作り」は着実に進み、平成８年４月１日に５万 3443 人であった人口は、現在では７万 2000 人を超えるなど、成熟期を迎えつつある吉川市ではありますが、今後 10 年と経たず、本格的な人口減少の段階に入ることを想定し、そうした社会状況に対応出来得る「まちづくり」を現在進めています。

その柱の一つが、次代を担う子供や若者達の「まちづくりへの主体的な参画」であり、市制施行 30 周年という節目を迎えるにあたり、これまで積み重ねてきた「すべての世代・すべての地域・すべての分野の皆さん一人ひとりとの共動のまちづくり」の中でも、特に「子供や若者達のまちづくりへの主体的な参画」をさらに前進させることにより、人口減少時代を迎えたとしても「幸福実感が高く、住み続けたい故郷、吉川市」という「価値ある未来」を吉川市に創り出せると考えています。

以上の理念、考えの下、令和８年度もすべての施策において、全職員と共に力を尽くすことをお約束申し上げます。

※ 共動 … 市民と行政が課題を共有し、解決に向けて共に動くこと。市長が掲げる理念の一つ。

吉川市長 中原八一



【発行】吉川市 【お問合せ】吉川市総務部財政課 〒342-8501 埼玉県吉川市きよみ野一丁目1番地 電話 048-982-5967（直通）